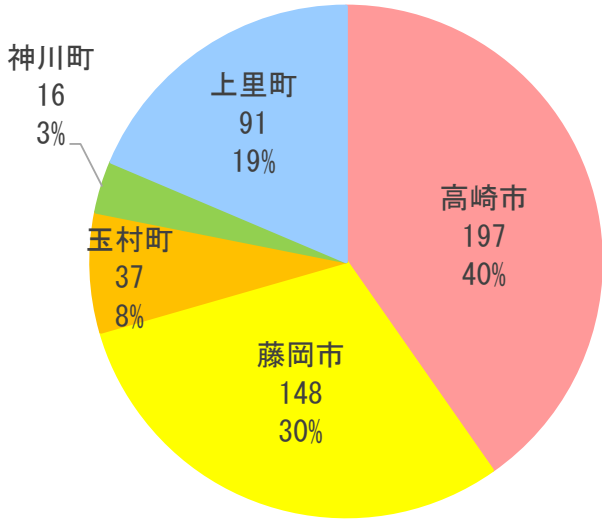
住民意識アンケート調査 集計結果

第10回協議会　参考資料2-3

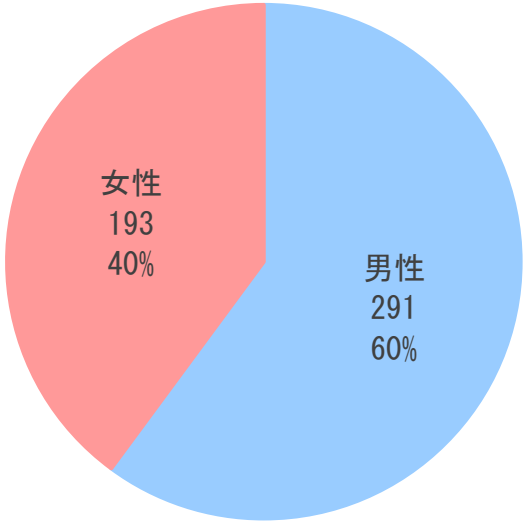
地域

【有効回答数 N =489】



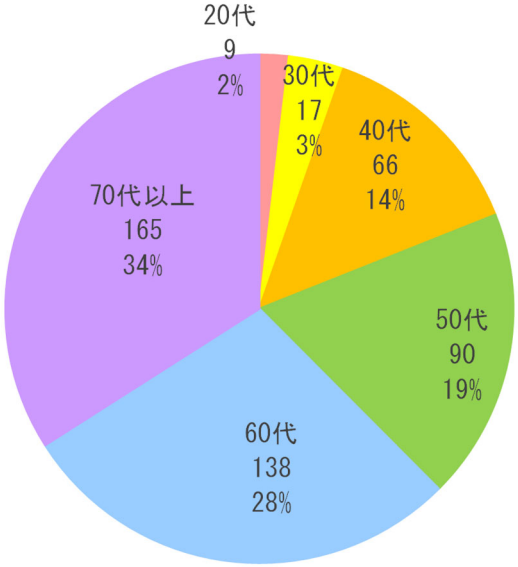
性別

【有効回答数 N =484】



年代

【有効回答数 N =485】

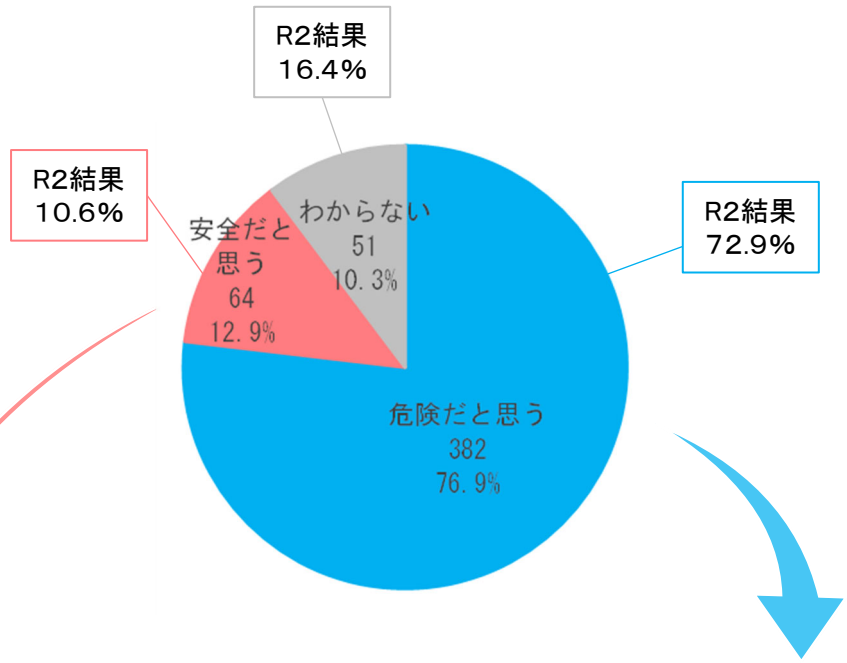


住民意識アンケート調査 集計結果

Q1 水害の危険性についてお聞かせください。

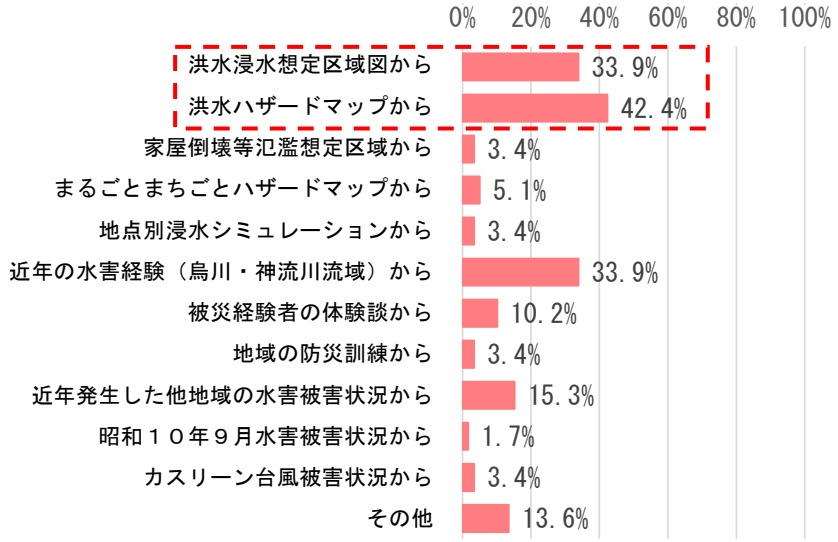
Q1-1 河川の水があふれた場合、あなたのお住まいの場所に危険が生じると思いますか？
（単一回答）【有効回答数 N = 497】

《POINT》
「危険だと思う」と回答した流域住民の割合は76.9%であり、令和2年度（72.9%）から4.0%増加している。一方、「安全だと思う」と回答した流域住民の割合は12.9%であり、令和2年度（10.6%）から2.3%増加している。
回答した理由として、「洪水浸水想定区域図から」「洪水ハザードマップから」を挙げている割合が「危険だと思う」「安全だと思う」共に大きい。

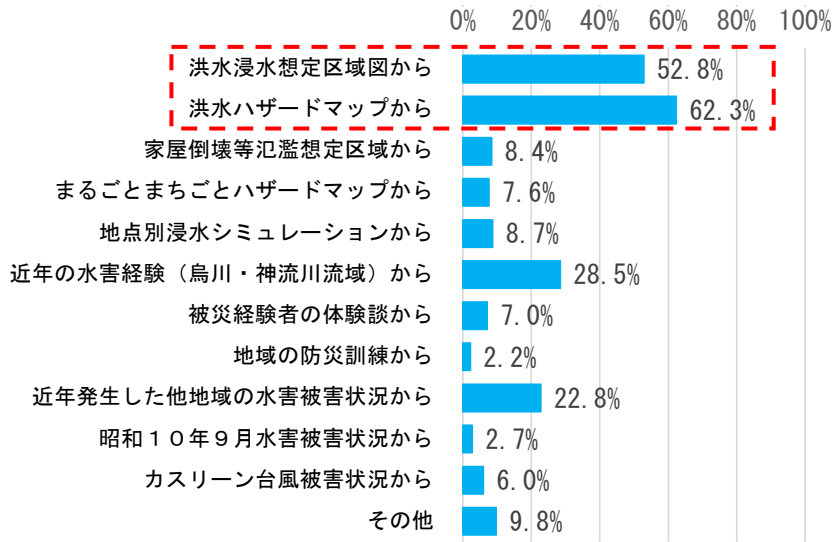


Q1-2 なぜそのような回答をしましたか？
（複数回答可）【有効回答数 N = 428】

●安全だと思っている人の回答



●危険だと思っている人の回答



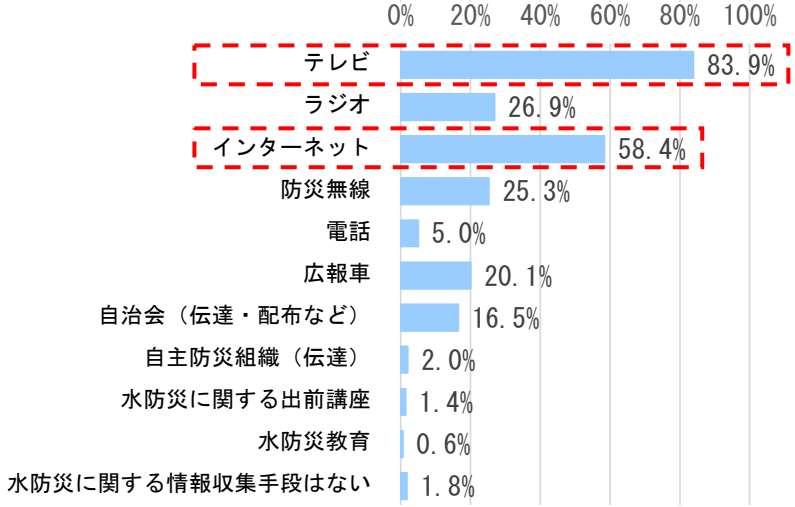
住民意識アンケート調査 集計結果

Q2 日常の備えについてお聞かせください。

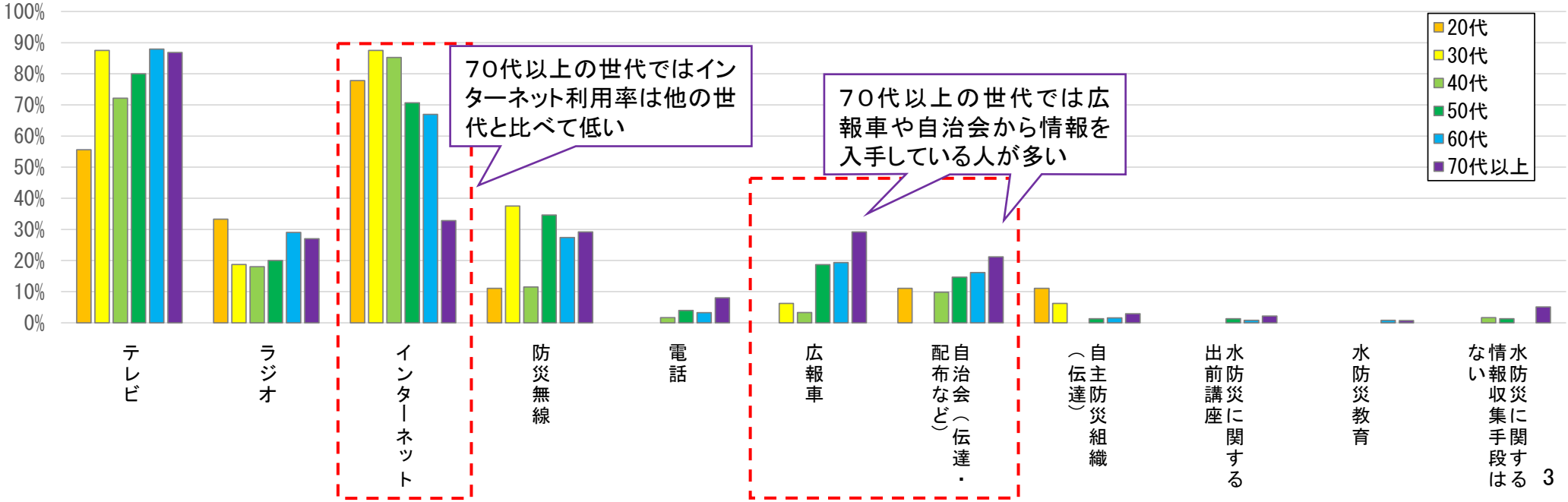
Q2-1 普段、水害から身を守るための情報をどのように入手していますか？
（複数回答可）【有効回答数 N = 498】

《POINT》
水防災に関する情報は「テレビで入手する」という人の割合は83.9%であり、令和2年度調査時（93.2%）と同様に、最も多い結果となった。「インターネットで入手する」という人の割合は58.4%であり、令和2年調査時（51.0%）から7.4%増加している。
一方、70代以上の世代ではインターネット利用率は他の世代と比較して低く、広報車や自治会から情報を入手している人が多い。

全年代　集計結果



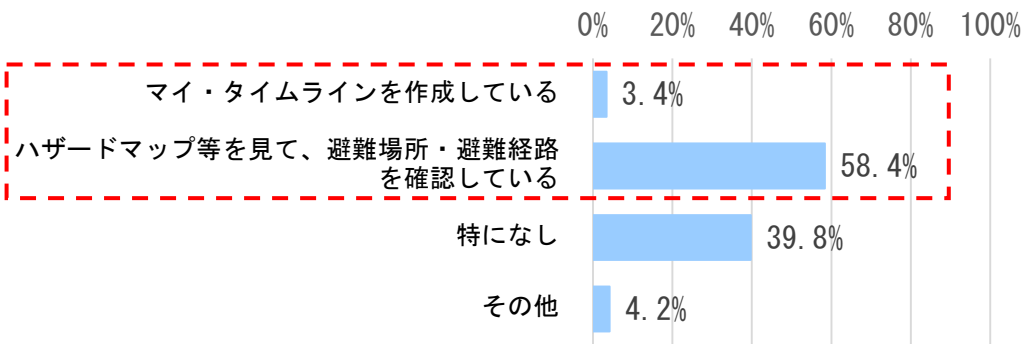
年代別　集計結果



Q2（続き）　日常の備えについてお聞かせください。

Q2-2

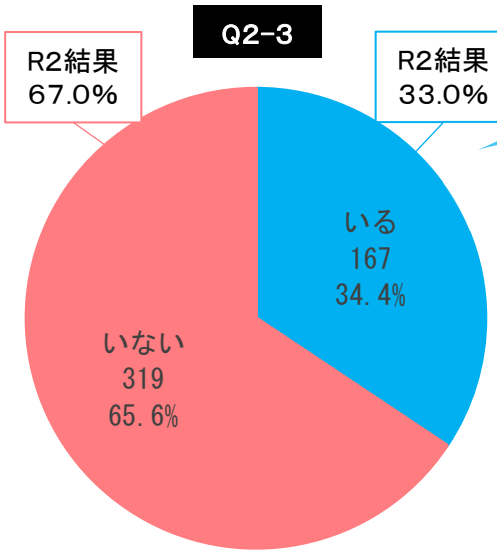
避難する際の準備として日頃行っている（考えている）ことはありますか？
（複数回答可）【有効回答数 N = 498】



《POINT》
「ハザードマップ等をみて避難場所・避難経路を確認している」という人の割合は58.4%であり、令和2年調査時（58.4%）からほぼ横ばいである。
「マイ・タイムラインを作成している」という人の割合は3.4%であり、令和2年調査時（3.4%）から変化がない。

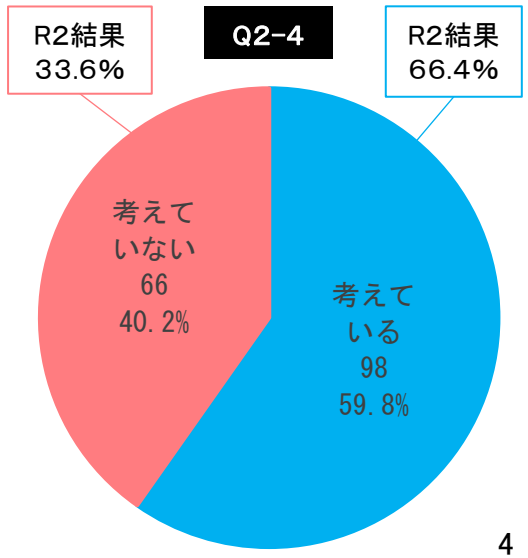
Q2-3

ご家族に赤ちゃん、お年寄、介護を必要とされる方等がいらっしゃいますか？
（単一回答）【有効回答数 N = 486】



Q2-4

【Q2-3で「いる」を選んだ方のみ】
赤ちゃん、お年寄、介護を必要とされる方等の避難方法を考えていますか？
（複数回答可）【有効回答数 N =164】



《POINT》
ご家族の中に要配慮者のいる回答者のうち、要配慮者の避難方法を考えている人の割合は59.8%であり、令和2年調査時（66.4%）から6.6%減少した。

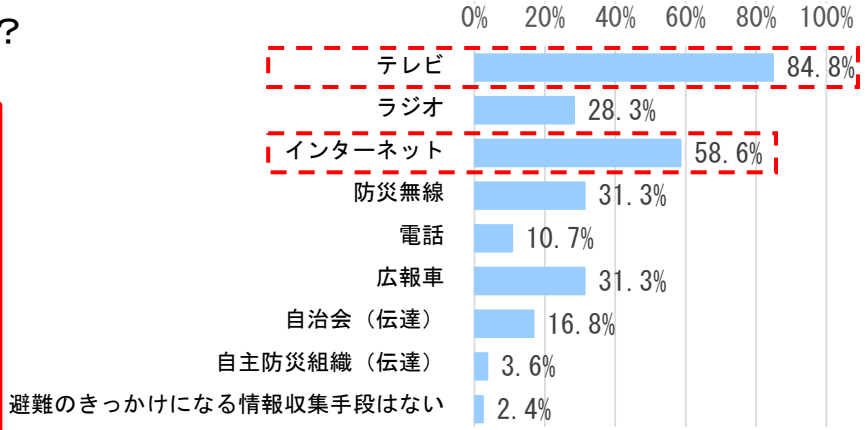
住民意識アンケート調査 集計結果

Q3 台風・大雨が発生した場合の行動についてお聞かせください。

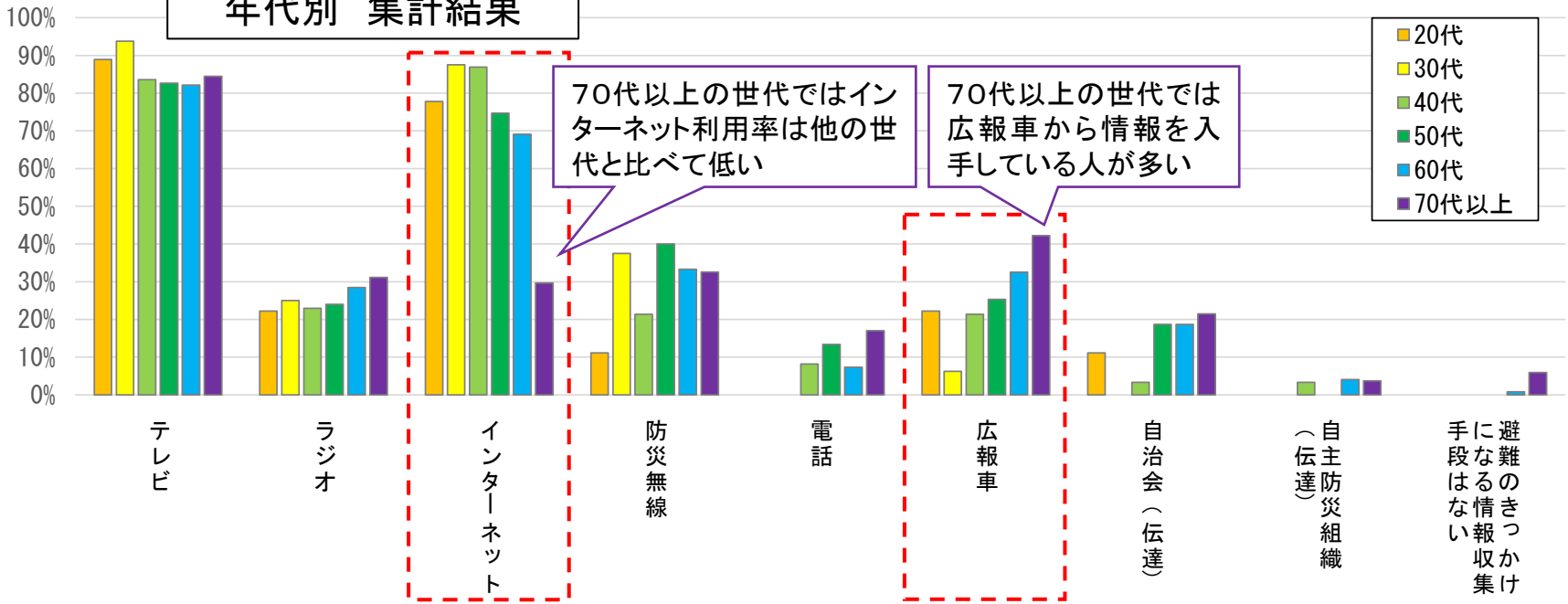
Q3-1 避難のきっかけとなる情報を入手する手段は何がありますか？
（複数回答可）【有効回答数 N = 495】

《POINT》
避難のきっかけになる情報は「テレビで入手する」という人が最も多い結果となった。避難のきっかけになる情報は「テレビで入手する」という人の割合は84.8%であり、令和2年度調査時（91.0%）および平常時の情報入手手段（Q2-1）と同様に、最も多い結果となった。
「インターネットで入手する」という人の割合は58.6%であり、令和2年調査時（52.4%）から6.2%増加している。
70代以上の世代ではインターネット利用率は他の世代と比較して低く、広報車から情報を入手している人が多い。

全年代　集計結果



年代別　集計結果



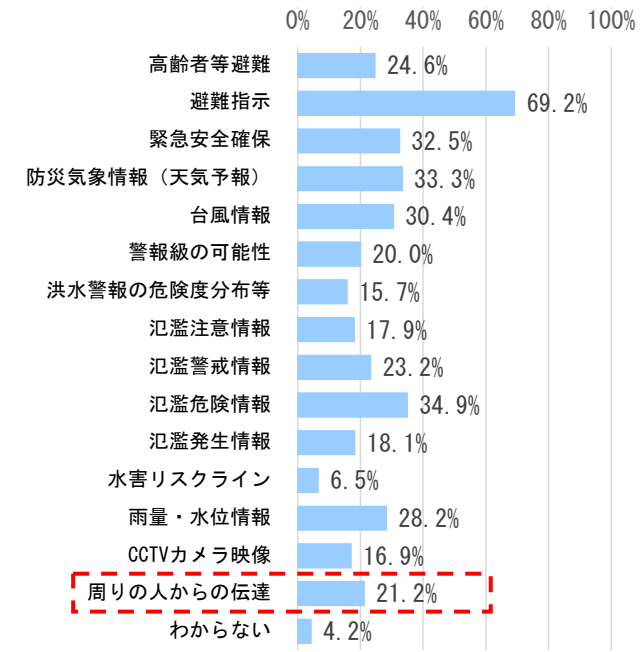
住民意識アンケート調査 集計結果

Q3（続き） 台風・大雨が発生した場合の行動についてお聞かせください。

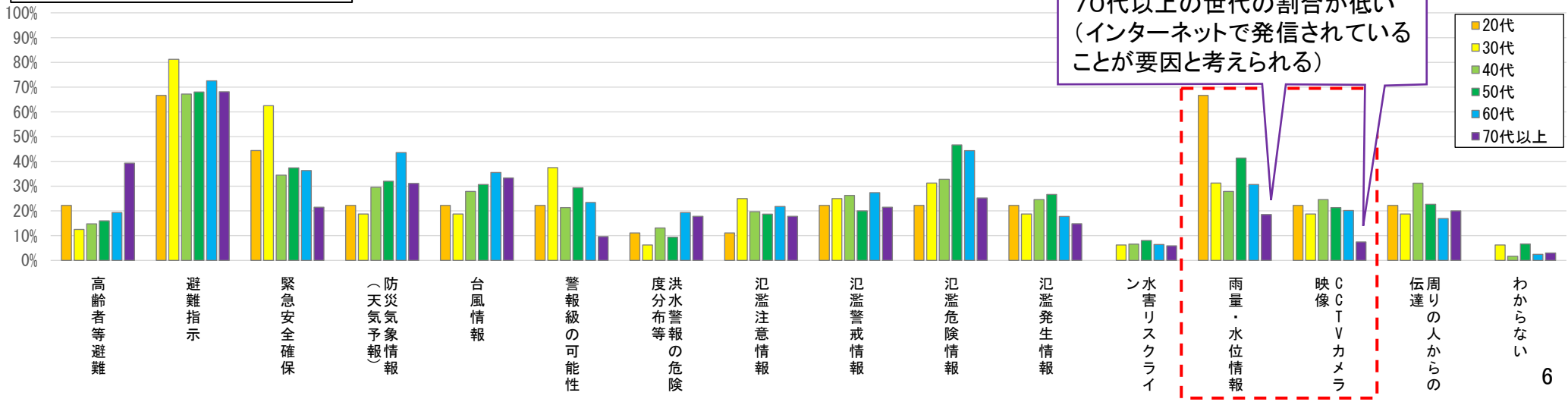
Q3-2 どのような情報で避難を決断しますか？
（複数回答可）【有効回答数 N = 496】

《POINT》
避難のきっかけになる情報として、自治体から発令される避難情報に加え、テレビやインターネットによって発信されている情報をもとに判断し、避難を決断しているという結果となった。
「周りの人からの伝言」で避難を決断する人の割合は21.2%であり、テレビやインターネットを通じて伝わるものだけではなく、地域のコミュニティによる情報も決断のきっかけとなるという結果となった。
70代以上の世代で「雨量・水位情報」「CCTVカメラ映像」から避難を決断する人の割合は他の世代と比較して低い。要因として、これらの情報がインターネットで発信されていること、 70代以上の世代ではインターネット利用率は他の世代と比較して低いことが挙げられる。

全年代　集計結果



年代別　集計結果

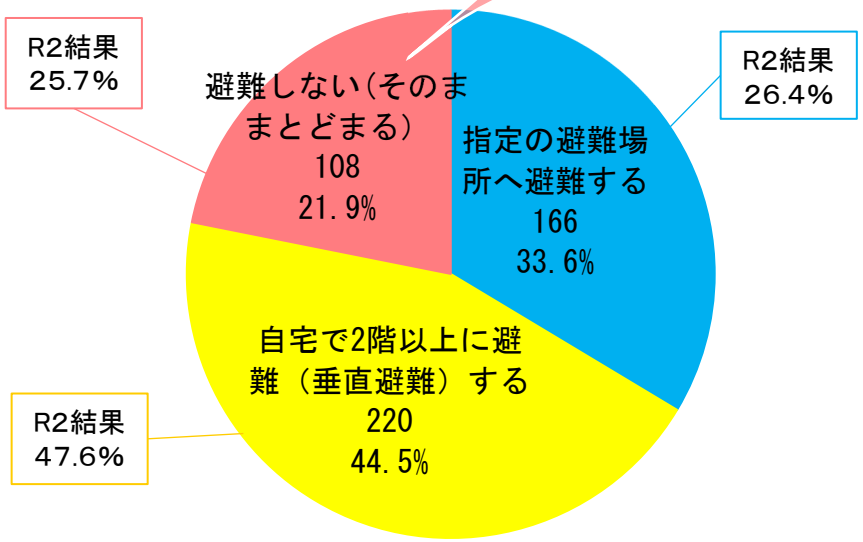


70代以上の世代の割合が低い
（インターネットで発信されていることが要因と考えられる）

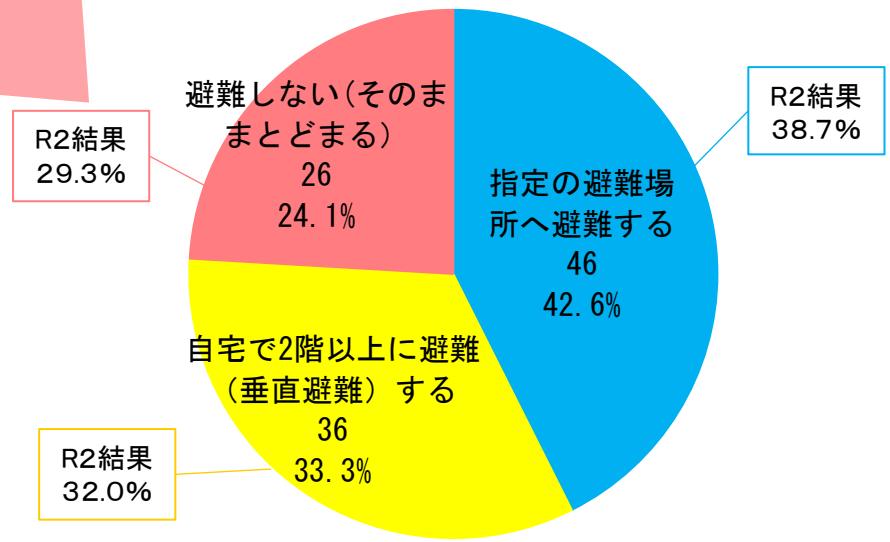
住民意識アンケート調査 集計結果

Q4 仮に、台風が近づいている状況をご想像ください。

Q4-1 家の近くの河川の水位が高まり、あなたのお住まいの地域に「高齢者等避難」が発令されました。まだあなたの家の周囲で浸水は発生していません。その場合にあなたはどのような行動をとると思いますか？
（単一回答）【有効回答数 N = 494】



Q4-2 【Q4-1で「避難しない」を選んだ方のみ】
家の近くの河川の水位がさらに高まり、あなたのお住まいの地域に「避難指示」が発令されました。まだあなたの家の周囲で浸水は発生していません。
その場合にあなたはどのような行動をとると思いますか？
（単一回答）【有効回答数 N = 108】

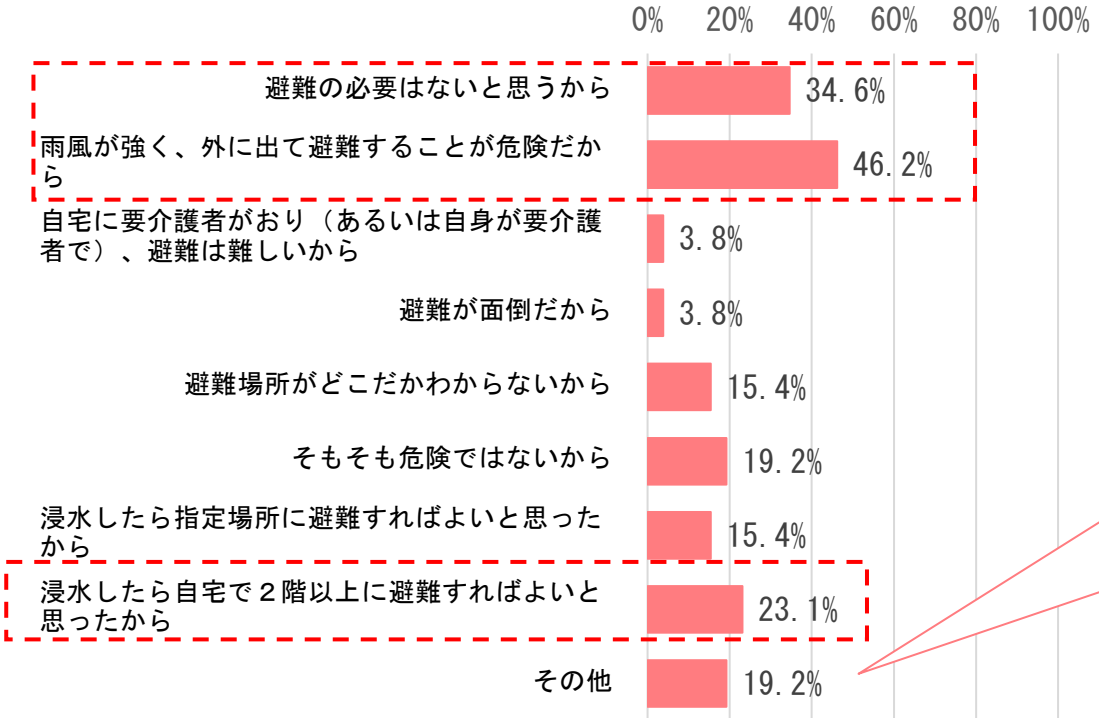


《POINT》
「高齢者等避難」発令で、「避難しない（そのままとどまる）」と回答した人の割合は21.9%であり、令和2年調査時（25.7%）から3.8%減少している。

《POINT》
「高齢者等避難」発令で「避難しない」とした人のうち、24.1%が「避難指示」発令でも避難しないと回答した。これは全体（Q4-1の有効回答数N=494）の5.3%に相当し、令和2年調査時（7.4%）から減少している。

Q4（続き） 仮に、台風が近づいている状況をご想像ください。

Q4-3 【Q4-2で「避難しない」を選んだ方のみ】
「避難しない」理由として、次のうち当てはまるものをお選び下さい。
（複数回答可）【有効回答数 N = 26】



【その他（自由記述）】※同じ内容の記述は1つに要約して記載
- ペットがいるから
- 近隣の建物に高いところがないから
- 自身が身体障碍者だから
- 避難場所が遠く、避難する前に危険になるから
- 避難場所に行くための道が一番早く冠水するから

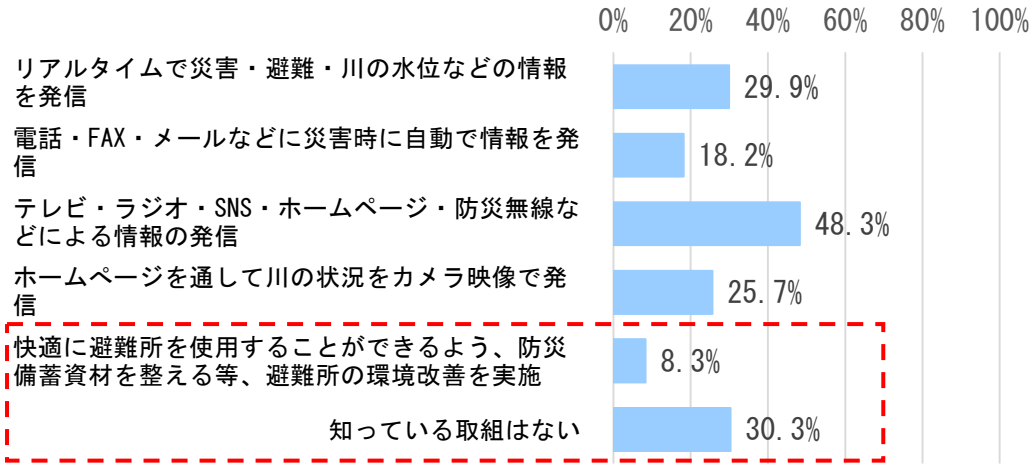
《POINT》
「避難指示」発令でも避難しないと回答した人に理由を尋ねると「避難の必要がないと思うから」「雨風が強く、外に出て避難することが危険だから」などの回答が多く見られた。
また、「浸水したら指定場所に避難すればよいと思った」という回答もあった。

住民意識アンケート調査 集計結果

Q5 あなたのお住まいのある地域で行われている水防災に関わる取組についてお聞かせください。

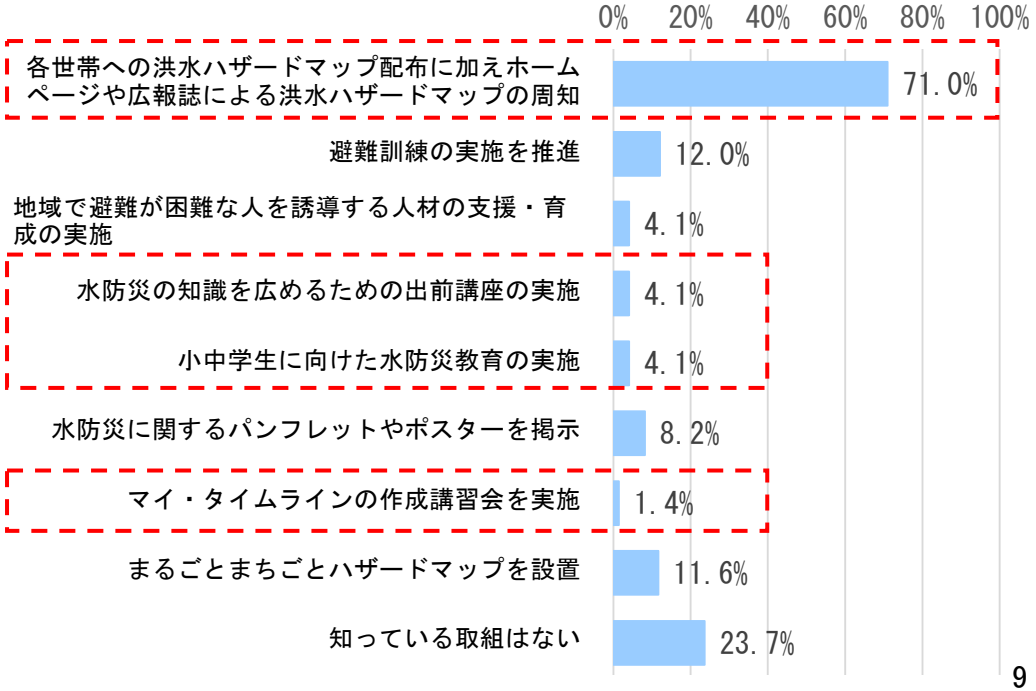
Q5-1 災害時に役立つ水防災の取組として、あなたが内容を知っている取組はありますか？
（複数回答可）【有効回答数 N = 495】

《POINT》
令和2年度調査の結果を踏まえ取組に追加した「避難所の環境改善を実施」の認知度は8.3%であり、他の取組の認知度と比較すると低い結果となった。
また、「知っている取組はない」と回答した人の割合は約3割という結果となった。



Q5-2 平常時から行われている水防災の取組として、あなたが内容を知っている取組はありますか？
（複数回答可）【有効回答数 N = 490】

《POINT》
洪水ハザードマップの周知に関する取組の認知度は71.0%であり、他の取組と比較して高い結果となった。
また、本協議会で重点取組に設定されている。
・出前講座の実施
・水防災教育の実施
・マイ・タイムラインの作成・普及啓発
の認知度はいずれも1割未満という結果となった。



住民意識アンケート調査 結果概要

■令和5年度　住民意識アンケートの結果概要

- 浸水リスクがある地域に居住する流域住民のうち94.7%が**「避難指示発令時までに避難行動をとる」**と回答した（令和2年度調査時：92.6%）
- 浸水リスクがある地域に居住する流域住民のうち76.9%が水害リスクに対し**「危険だと思う」**と回答した（令和2年度調査時：72.9%）
- 水害時の避難行動・水害リスクの認知について、令和2年度住民意識アンケートの結果から5%以上の傾向の変化は見られなかった

→流域住民の水防災意識は令和2年度から同水準を維持している

- しかしながら、一部の回答結果より水害リスクが正しく理解されていないなど課題が確認された

■今後の取組方針について

- 今後起こり得る大規模水害による被害を防ぎ、いざ災害が起きたときの「**逃げ遅れゼロ**」を実現するため、**水防災意識の更なる向上**を目指す
- アンケート調査の結果から見えた課題を克服するため、機関毎に今後の取組方針の見直しを実施する